

男女砂浜乱交パーティー 夜と昼の 裸の浜辺 後編

エリナの夏らしいホットパンツの全体が盛り上がっている。

ユウタはすっかり赤ん坊のようなオトナの女性になったエリナと海の5日目・・・・・・・・

ついに・・・・・・・・

二階で夜明けまでずっとずっと裸で深いところまで語り明かした・・・・・・・・

延々とセックスしていた。

次の朝の浜辺は全てがピンク色の楽園
だった。

温水のように冷たいけれど温か
い・・・・・・・・。

．．．．永遠に続く夏の真っ最中。

成長した男女メンバーたちの熱い青春
は続いていく．．．．．。

脱ぎ捨てられた白い女子たちのパンツ
は砂浜の波にさらわれていった．．．．．。

テントが張られ、夜のライトアップなども。

．．．．．こうして浜辺には次々とエッチな男女が集まって来る．．．．．。

波に濡れている女子たちの楽園。

波に打たれてゆらゆらと漂っている・・・・・・・・。

一人の女性が駆け寄り

ムッチムチの太ももに砂浜をつけた。

とてもいいシャンプーの香りが波と呼
応し音を奏でている。

・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 。

「海小屋を建ててみよう ・ ・ ・ ・ ・ 」

次なるメンバーはそんなことを思い立

った・・・・・・・・。

砂浜の手前。コンクリートの上に置かれた小さな真っ白の絵巻物には

昔から続いている男女たちのエッチな夏物語の方法が書かれていた。

広い・・・・・・本当にとにかく広い砂浜の
シートの上で延々と波のように押し寄
せる快樂の中

今年も3ヶ月間の夏物語は繰り広げら
れた。

通りすがりの老人の海水浴客が一人・・・・・・・・

それをしっかりと見ていた。

裸で抱き合う男女たちを・・・・・・・・。

「この間の乱交も凄かったがねえ・・・」

夢中で・・・・・・・・派手なビキニを着て舐め合っているバカカップルたちを見て。

激しいセックスに太陽の鮮やかな光で
砂浜の色が今にも変わってしまいそう
である。

小さな水着を着た男女たちは

「あとで・・・・・・・・カフェでゆっくりし
ようよ・・・・・・・・」

今もずっと舐め合っているのに……。

更に屋内でする予定である……。

熟女店主は言った。

「水着はやっぱりオトナの方がいいよねっ！！」

子供のように小さな白いパンツを穿き、フェルト帽とニット帽を見比べながら微笑んだ。

昨日のみっちり濃密な旦那とのセックスで

ピチピチの肌となった店主は手持ちのハンドミラーで自分の二の腕を確認。

ダンスに整理されたたくさんの小さなビキニ水着を取り出す。

そして次なるメンバーに笑顔で告げた。

「明日はこれを穿いて海へ遊びに行ったらどうかしら？」

・・・・・・・・明日の天気予報は晴れである。

しばらく晴天が続きそうである。

海とカフェ・・・・・・・・。

水着で向かう。

ゆっくりと歩を進めてピンク色のおっ

ぱいの海へ向かう。

ウキウキ気分で夜は

ベッドの薄赤のシーツがびっしょびし
よ。

夏の空の下・・・砂浜の上で歌を謳歌する・・・。

怖いくらいの気持ち良さが脳内に広がっていく・・・

真っ白い下着の紐が風に揺れている。

股を脱いで太ももを丸出しにした女子
たちは、

心地良く涼しい夏空の下で男子たちと
裸で愛し合う・・・・・・・・。

細かった道は

別世界のように大通りと化す。

浜辺には水着姿の写真などが貼られていた。

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）